

## お知らせ

○チェーンソー安全研修：11月23日（火、休日）ちば里山センター主催、木村講師のチェーンソー安全研修が豊英島で実施されます。受講希望者は事務局上記アドレスにお申込みください。11月10日までに。

- ・持ち物・服装等 軍手・動きやすく、汚れても良い服装。あればヘルメット、ゴーグル、日頃お使いの機材
- ・参加費 ￥1000（資料代・保険代等）

## 活動の記録

10月16日（土）晴 きのこ観察会 千葉県中央博物館吹春講師、千年の森会員含む参加者総数 42名。

吹春先生をお迎えして恒例となった豊英島キノコ観察会は、昨年とうって違って秋晴れの好天候と、多彩なキノコに恵まれ大盛況でした。例年通り午前中は森のキノコ狩り、昼食には坂本さん仕込みの美味しいキノコ汁を大鍋2杯ご馳走になり、午後は吹春先生解説によるキノコ勉強会と、充実した楽しい観察会でした。吹春先生有難うございました。坂本さんご馳走様でした。



秋晴れのキノコ観察会は42名参加の大盛況

参加者は（順不同・敬称略）吹春俊光・公子、石川太郎、大作晃一・晃平、近田隆・節子・譲、大鷲満・和子、磯田耕司・京子、川添忠俊・訓子、中島正光、安藤啓一・風美、岩崎由利子、橋川直人、高澤由美、小山和裕・真理子、森浩也、中田利明・真也子・夏実・智貴・裕士・朱音・千晴、（以下千年の森会員）新井、安藤、鶴沢、甲斐、坂本(文)、福島、福田、降幡、松本、真鍋、森、山口。



美味しいキノコ汁のお代りで満腹

○キノコ狩り；先生の解説つき観察コースは昨年と同じホテイ岬方面、タマガタケやアカヤマドリなど夏のキノコとサクラシメジやウラベニホテイシメジなど秋のきのこが入り乱れ、キノコの種類が例年になく多い。夏の干ばつによる出遅れと、秋の多雨による急な発生の結果ではとの解説。量も多い。コナラを取り囲んでリング状にサクラシメジの見事な群生にあちこちで出あい感嘆の声、先生の「外生菌根菌」のお話を聞きながら、撮影もキノコ狩りも忙しい。マダケ保護柵内にはナラタケの群生。この日のホテイ岬コースのハイライトは何と言ってもホテイチク保護柵内の見事なコウタケ。子供たちもキノコ狩りに余念がなく「このキノコは？」と次々に公子先生に持参して質問攻め、先生は大忙し、サンプルかごは直ぐに満杯に。千葉菌（千葉菌類談話会）メンバーなどベテラン組はそれぞれの独特の勘を頼りに巨木林などでキノコ狩りを楽しみ、相当の成果があった模様、採取サンプルの多さからみて。健脚組は「禁断の岬」に潜入して島の名物バカマツタケに出会いました。（真鍋記）







タマゴタケ



ウコンハツ



コウタケ



バカマツタケ

### ○キノコの勉強会；今年も、

実際に採れたキノコを見ながら吹春先生によるキノコの話が聞けて、とても楽しくためになるキノコ観察会でした。キノコの種類は、胞子の色で大きく分ける分類法から始まり、採取・同定されたキノコにつ



いて面白く解説がありました。マツタケに似たものはバカマツタケ、ニセマツタケ、マツタケモドキがありこれを知っていると自慢できる、フウセンタケの仲間やホウキタケの仲間は名前が付いていないものが多く、特にホウキタケの分類はこれから、などなどたくさんの興味あるお話を聞くことができました。キノコの味や調理法、有毒か可食かなどには参加者の体験も披露されて話が盛り上がりました。（福島記）

オニフウセンタケがニューギニアでも採れており、大昔、日本とニューギニアは陸つづきではなかったか？という本郷先生説も紹介された。また人間の出入りが制限された豊英島は、今回の観察会で見るように、多くのキノコが発生しており、今後どのように変化していくのか興味があるとのお話もありました（降幡記）

キノコの先生方はどなたも自然に対する態度が謙虚だと感じます。今回の講師の吹春先生はもとより、大御所の本郷先生も素晴らしい方でした。キノコに興味を持つ誰にでも、分け隔てなく接してくれるのも、嬉しい事です。素人である私のとんちんかな質問にも、丁寧に回答して頂いたのに、大感激した思い出があります。話の途中で遠慮なく割り込んでくる子供の問いかけにも、面倒がらず柔軟に受け答えするのは吹春先生の個人的な素養かも知れませんが、キノコ界の先生方の伝統的な態度だと思います。（坂本文雄記）

この日観察・同定されたキノコは次の66種でした；コウタケ、クサウラベニタケ、クロカワ、クロラッパタケ、ウラベニホテイシメジ、サクラシメジ、アカヤマドリ、オニフウセンタケ、ウスタケ、フジウスタケ、タマゴタケ、ノウタケ、カキシメジ、ミネシメジ、バカマツタケ、テングタケ、ガンタケ、コテングタケモドキ、ドクツルタケ、ハナホウキタケ、ケロウジ、アオイヌシメジ、ホウライタケ属、モリノカレバタケ属、キシメジ科不明、チャナメツムタケ属、イッポンシメジ属、シロテングタケ、ミヤマタマゴタケ、ツエタケ、ヘビキノコモドキ、テングタケ、ヤマドリタケモドキ、オオホウライタケ、キタマゴタケ、ウスヒラタケ、オオツルタケ、ニカワホウキタケ、スミソメシメジ、タマシロオニタケ、クロハツ、トキイロラッパタケ、ミヤマザラエノヒトヨタケ、コフキサルノコシカケ、ツヤウチワタケ、クロハナビラタケ、シロシメジ、ヒメヌメリイグチ、テングタケ属不明種、アメリカウラベニイロガワリ、ニセアシベニイグチ、ウコンハツ、ザラエノハラタケ、フウセンタケ属、ニガクリタケ、キンチャフウセンタケ、チチアワタケ、キチチタケ、チシオタケ、アオロウジ、オオシロカラカサタケ、トビチャチチタケ、アカチャツエタケ、ナラタケ、クロコタマゴテングタケ

たのしかったきのことり 目黒区立碑小学校 2年 あんどうふみ 安藤風美

おじいちゃんにさそわれてきのこをとりに森へきました。いろいろなきのこが、こんなにいっぱいあるなんてびっくりしました。とくにいっぱいあったきのこは、サクラシメジでした。いっぱいとりました。つぎは、ほかのきのこもいっぱいとりたいです。おみそするおいしかったです。あんどうふみ

豊英島きのこ観察会に参加して 横須賀総合高校1年(千葉菌類談話会) 石川太郎

今日の観察会はとても楽しかったです。何しろ驚いたのは発生したきのこの量です。森に入ったとたんに、色とりどりのきのこが目飛び込んできてとても興奮しました。これまで見たことの無いような大きなきのこや珍しいきのこをたくさん写真に撮りました。聞いた話ですと、集められたきのこは500本くらいもあったそうです。こんな秘境が千葉県にあるとは思ってもみませんでした。ここを管理してくださっている方にとっても感謝します。お昼にはきのこ鍋が出ました。そして午後は吹春先生による講演で、きのこのことをたくさん勉強できました。きれいな緑の中でたくさんのきのこに出会うことができ、とても幸せだと思いました。とてもいい思い出になりました。ありがとうございました。

千年の森観察会に参加して 八千代市(千葉菌類談話会) 近田節子

以前から、千年の森の活動について、会員の村野さんにお話を伺っていました。大変興味を持っていましたが、なかなか都合がつかず、やっと参加することができました。

今年の夏は少雨で気温が高く、9月前半は全くと言っていいほどきのこの発生は見られませんでした。9月後半から10月に入り、警報の出るほどの降雨量で一気に地下の菌糸たちが動き出したのでしょう。各方面で、きのこ大発生との情報を伝え聞き、ここ千年の森も予想通りの充実したきのこ観察会となりました。

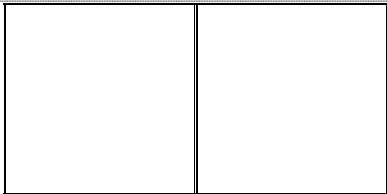
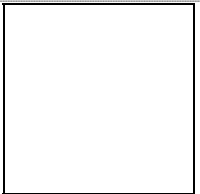
吹春先生のお話によると、いつもより、きのこのシーズンが遅いそうです。ある一定の時期に限ってでてくるきのこたちが、一斉に今の時期に、混在して出ているのも、今年の特徴だそうです。

ここ千年の森は何より、普段、人が入らない場所なので、林床も柔らかく、きのこにとって子実体が発生しやすいのかもしれませんが。漠然とした考えですが、房総の自然の様々な特徴が垣間見られる、私たちにとって貴重な離島とっていいのではないのでしょうか。

バカマツタケをはじめ、ヤマドリタケモドキ、コウタケ、ウラベニホテイシメジ、タマゴタケ等の優秀な食菌から、ドクツルタケなどの猛毒のものまで、市街地にはないバラエティに富んだ楽しい観察会でした。また、機会がありましたら、是非参加させてください。ありがとうございました。

キノコ汁担当から

野外活動で汗をかいた後のお昼には、一杯の温かいみそ汁がご馳走に感じます。体の冷える季節は尚更ですから、これからの冬季活動には必要な事だと思います。今回は、多くの皆さんの食材提供と、下ごしらえのお手伝いを頂いて無事に役目を果たせたと思いますが、いかがだったでしょうか。お腹を壊した方はいなかったでしょうか。キノコ汁の時は特に気になります。最初は皆さんが静かにすすっていて、無反応だったので何か失敗があったのか不安でしたが、二杯目をお代りに来られた方を見て、ほっとしました。最初の一鍋で足らずに、追加の鍋も完食でした。(坂本文雄記)

	<p><u>豊英島の動植物</u></p> <p>坂本文雄さんは10月6日センサーカメラのメモリー交換のため豊英島に入り、9月23日撮影されたニホンザルを確認しました。また長年所在不明となっていたクスノキ科カゴノキをほこら山裏に確認、またシヤクジョウソウ科アキノギンリョウソウの開花を撮影しました。</p>	
<p>久しぶりにカメラに現れたニホンザル 9月23日センサーカメラ撮影</p>		<p>アキノギンリョウソウ 10月6日撮影</p>

